

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 谷津幼稚園保護者対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年11月23日（火曜） 10:00～11:30
場 所	谷津幼稚園 遊戯室
出席者	辻学校教育部長、市瀬学校教育部参事、小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹、天野こども政策課長

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 今回、前回の説明に比べてまとまっていて、経済比較とか、案も1枚にまとめていただいて、見やすくなって、本当に感謝する。いろいろ苦労されたのかなと思う。その中で、幾つか教えてほしい。

案1、案2があるが、今、谷津小学校、参考までに1人当たりの面積はどれぐらいになるのかという数値があったら教えてほしい。

あと、2つ目が、今後の行程で12月25日、教育員会議に議案提出するとあるが、最終的な意思決定は市議会で決定されるという理解でいいか。

回答者 1点目の、子供さん1人当たりの面積について。

谷津小学校については、現在、校舎棟及びグラウンド、この敷地として1万3,000㎡強というところから考えると、平成25年の5月1日現在の児童数858名で割り返すと、校地面積は児童一人当たり約15.19㎡である。

参考までに運動場は、現状、工事中であるが、6,511㎡に対して858名というところからいくと、1人あたり約7.59㎡である。

もう一点の御質問の最終決定について。今回、通学区域を変更しないということの中では、教育委員会議の中で決定をするというようなことになるので、教育委員会が最終的には決定をさせていただくということである。

質問者 最初の質問の仕方が悪かったのだが、要は平成27年度とか平成28年でいろいろ予備の校舎が建ちますよと。そして、あと近隣公園のグラウンドを使いますよと。そういう状況でどのぐらいの広さが確保できるかなとかいうのもちょっと心配している。それは、今、谷津小で見てのとおり、小学校で

野球とかサッカーとか盛んにやっているの、そういうところは多分、近隣公園で代替して用意していただきたいなと思っていて、そういう意味を含めて質問をさせていただいているが、そのシミュレーションは出来ているか。

回答者 その辺になると、実際その仮設の校舎をどのように配置するかというところで、まずその小学校敷地の面積を見出す必要がある。一方、近隣公園についても、多目的広場の面積が、整備後どのようになるのかということもあるので、申し訳ないが、現段階でお答えすることはできかねる。

回答者 多目的広場の面積については、一応 7,000 m²は確保できるということで確認している。

それから、議会との関わり方に関し、要は市のほうでこういうことをやるに当たって予算を審議していただく。例えば皆様の御意見をいただいて、それに基づいて教育委員会で検討を行い、計画をするに当たって、議会のほうでも予算についてこういうやり方はよくないのではとか、そういうところでは議会のチェックにかかる。それが議会のやりとりである。

回答者 仮に高学年分離ではなくて、56 学級で受けとめると言ったときに、今一時校舎を3棟必要とするというフローで御案内させていただいた。その3棟の配置の仕方にもよるけれども、それに加えて、その計画道路から中 25m の範囲で本設校舎を建替えるといったときにも、仮にプールがあったとしても、グラウンド面積は一定の確保はできるであろうというような形では想定している。

かつ、お話をさせていただいたように、そういった状況の中で民間施設へのアプローチ等で、プール指導が行えるという展開があれば、早い段階で解体をさせていただくというようなことを考えている。一時校舎を置いたとして、全てグラウンドが校舎で埋まってしまうということにはならないと見ている。

質問者 奏の杜の部分、つまり今開発中のところ、マンションが建設されているけれども、そこも含めて 56 学級で受けとめるという認識でよろしいか。

回答者 現在着工している大型マンション、次に 869 戸が建ち上がるというところも含めて、56 学級で受けとめるということでいいかという御質問。これについては、それも含めた形での受けとめということで御理解いただければと思う。

回答者 若干説明を加えさせていただくと、あくまで推計なので、本当に56学級になるのか、またはそれ以上になってしまうのかということはなかなか我々としても把握しづらいところがある。そのため、今回の提案のように、はなから56学級の大きな校舎を建てるのではなくて、実数に合うように対応できるような形で、一時校舎をまずは10教室ぐらい建てていく。さらには、もう少しその実数を鑑みて、10教室なのか、もう少し増やさなければいけないのかわからないけれども、また一時校舎を建設する。最終的には谷津小学校の学校規模として、36学級ぐらいの学校を最終的に本設として建てていって、一時校舎については壊していく。そしてグラウンドのほうを確保していく。

ただ、その間、子供が増えるということで、子供たちの教育活動の中で、グラウンドが手狭になってしまったり、グラウンドが全部潰れるわけではないけれども、その中で何十学級もの子供たちが活動することはできないので、もう少し広いところの近隣公園をお借りして、そこでも狭いかもしれないけれども、手配をしているところで、推計自体をもう少しある程度時間が経って、実数に近いものをとっていきながらも対応していきたいなというふうに考えている。本当に56学級になるかどうかということも今の時点では推計しているが、また見直しさせていただくということも考えているので、御理解いただけたらなと思う。

質問者 大きく2つ質問がある。1つは、今着工している869戸マンションについては、谷津小学校に通えるという前提で売り出すということなのか。一方、仲よし幼稚園跡は谷津小学校学区ではないということで売り出すということになったのか。そういうことは把握しているのか。そこら辺の人数が変わってきたから、この全体の計画が変わったのかなというような印象を受けた。個人的には、7丁目に住んでいるので、学区が変わらないなら大変ありがたいなと思ってうれしい気持ちはあるけれども、どうして変わったのかなと思ったので。

もう一つは、仮設の一時校舎3棟建つとなっているけれども、画像で見ると、3つ目は、これはここ道路なんじゃないのかなと、ちょっと単純にそう思ったので、ここに建つのかなと思って、一時避難場所としてそのグラウンドは、グラウンドというか広場か、ちょっと狭過ぎて現実的ではないようにも感じた。

もう一つ。その仮設の建設、鉄骨の校舎というのは、どういうものなのか。今年、小学校の裏に建ったような感じか。それがイメージできなかったので、

その工事の騒音とかそういうことに関しては、どのように考えているのか。結構長期間建設が続くと思うので、騒音とかそういう問題があるのか、ちょうど建設中に自分の子供が通うような感じになるので気になる。

回答者 今、案として考えた校舎というのは、私自身、非常に子供が多い世代で、プレハブで授業を受けてきたけれども、もうそういう時代のプレハブとは違い、ある程度鉄骨造の立派なものというふうに御理解いただければと思う。イメージとしては、習志野市庁舎第2分室と第3分室のような、あれよりはグレードは高いものだと思っていただいてよろしいかと思う。ただ、やはりプレハブということからすると、子供たちの教育環境を考えた場合に、やっぱり暑さであったり、そういったことも十分配慮しなければいけないので、空調設備を備えるなど、シミュレーションの中では考えている。

回答者 現在、柏市で庁舎の建設をやっていて、インターネットで見ただけでわかるのだが、私、プレハブ庁舎が建っているということで実際に行ってみたら、プレハブと言えないほど立派であった。普通、プレハブというと2階建てがせいぜいなのだが、柏の場合には4階建てぐらいの庁舎であった。プレハブといっても昔は軽量鉄骨とかそのあたりでやっていたけれども、重量鉄骨になると、もう相当いいもので全然見栄えが違う。実際、ちょっとインターネットで柏市役所を見ていただくとよくわかると思うので、参考にいただければと思う。

回答者 今、谷津小学校の北側のところに特別棟が建っている。最近のプレハブは鉄骨なので、工事現場で一時的に活用するようなプレハブよりは、はるかにいいはずなので、プレハブだからといって子供たちの学習活動に大きな影響が出るということはないのではないかなというふうに考えている。

それと、避難場所だけれども、一旦とにかく校舎の外に出すということが大前提になる中では、御指摘のように、かなりの子供たちがその狭い校庭に避難してくることになる。グラウンドに一時は集めるかもしれないけれども、その後、全校でまた谷津近隣公園のほうに、安全を確保しながら子供たちを移動させるという手だても、学校のほうの教育活動の中で十分配慮していただくように、こちらのほうも指示していきたいと考えているので、子供たちの安全、安心については第一優先という形で対応していきたいというふうに思っている。

ただ、やはり狭いので、全然支障がないだとか、何も配慮しなくてもいいということではないということだけは御理解いただきたいなど。例えば、保

護者への引き渡し訓練などは、ひょっとしたらできないかもしれない。そうなった場合は、一旦校庭に集めて、谷津近隣公園に全体で動いた後に引き渡すとか、または他の方法が考えられるのかということは、具体的に子供の様子だとか、その環境を見ながら対応していきたいと考えている。

それと、騒音について。学習活動に騒音はとても心配だということだけでも、これについても、できるだけ子供たちの学習活動に影響が出ないようなことで配慮をしていける方法を考えていきたい。

併せて、騒音だけでなく、工事車両が入ってくるだとか、いろいろ安全面についての配慮も十分行いたい。

回答者 その仮設校舎の工事については、基本的には夏休み中の対応を考えているので、学習活動への影響ということの中では支障はないと考えている。

質問者 本設校舎の建設の部分は。

回答者 本設校舎建設は長期にわたるので、またその際に御案内できるかと。

回答者 また、先ほどのイメージ図について、体裁上、少しはみ出している形だが、基本的には入るという確認はとれている。

それと、あと冒頭の推計のお話。改めて整理をさせていただくと、前回お示しをさせていただいた56学級、約2,000名の学級推計について専門業者にも行っていただいたというお話をさせていただいた。この辺については、現在奏の杜のまちが30年度までに入居、2,800世帯まで入るということを含めた学級推計である。そのため、869戸がその推計の中に入っている。仲よし幼稚園跡地活用事業の750世帯、こちらについては、その推計結果が出た後に確定の公共事業概要が明らかになったので、56学級の中には仲よし幼稚園跡地活用事業750世帯は入っていないということになっている。仲よし幼稚園の跡地750世帯を含めて推計すると、恐らく56は超えてくるという時期があらうと考えられる。

そういう中で、今回、通学区域を変更しないというのを一定の方向性としているものであるけれども、学区を変えなければ、869戸については基本的には谷津小学校区という形で販売には入っていくということである。ただ、750世帯については、谷津小学校ではもう受けられないというような考え方になる。これは、谷津1丁目にあるけれども、こちらについては販売上、その通学区域を指定した後に販売を進めていただくことになるということで、御理解をいただければと思う。

回答者 それから、869 戸の事業者に対しては、前回までの説明会にてお示した内容、つまり、通学区域の変更もあり得、必ず谷津小と決まったわけではないということで伝えている。谷津小で通学区域を変更しないということで、こうして皆様にお示ししているが、まだデベロッパーのほうには、必ず谷津小に行けるというお話ししていない。

質問者 最初に質問された方が、最終決定はどこでやるのかというお話をされたときに、教育委員会であるが、予算については市議会がつけるので変更はあり得るということだったけれども、この変更というのは校舎のつくり方とかそういったことの変更であって、学区の変更ではないということでしょうか。

また、予算に関して、大体どのぐらいかかるというのは、教育委員会と市のほうである程度やりとりをしながら進めていると考えてよろしいか。

回答者 この関係での決定は教育委員会が行って、それに伴う予算の審議というのは市議会になろうというお話をさせていただいた。その中で変更というのも、これは通学区域の変更ということではなくて、予算の修正ということがあり得るといってお話ししたものである。

それと、予算については、教育委員会として、この方向性の中で必要となる経費を算出して、市長事務局にその予算を必要とするという折衝をした中で、予算編成が行われていくということになる。

回答者 これは、皆様に1案、2案を示すに当たっては、市長以下、市長事務局としっかり協議して、どちらになってもこれでやっていくということで話してある。

回答者 学区についてもう少し具体的にお示しすると、学区そのものを決めていくのは教育委員会会議となる。我々としては、こういう案でいかがかと、教育委員の皆さんに審議をしていただく。その後、教育委員会として、通学区域学区審議会のほうに諮問を出す。そうすると、例えばPTAの代表の方だとか、学校の校長先生だとか、また市議会の議員さんだとか、そういう通学審議委員の皆さん方に、その諮問に対する審議をしていただく。そして、諮問に対して答申が出る。この方向でいいのかとか、いや、これはもう一回見直したほうがいいのではないかという答申。最終的に、教育委員会の定例会にその答申が報告され、改めて、その通学区域についての決定が教育委員会

議の中で行われる。ただし、予算的なことでいったら行政的なことであるので、これは市長部局のほうとの協議が必要であるということになると思う。

質問者 今のお話で、その案1ないし案2というところで、住民側の意思表示というか、どちらがいいのかという意思表示をする機会ないしは、もしその機会があったとして、その意思表示が結論に影響を与えるような、そういう機会はないという理解でよろしいのか。

回答者 その機会が、この説明会であるというふうに考えていただきたい。

質問者 今の質問は案1か案2かどちらがいいかという意味なのだが。

回答者 そういうことを含めて言うのであれば、我々がそれを参考にして諮問案のほうを出させていただく。

回答者 小学校、中学校、幼稚園、それから地域で10回ほどやった中でこの案にした。通学区域を変更しない場合のこの2案を出しているのは、高学年分離は、約7割強の方が高学年分離はよろしくないということがあったのだが、通学区域を変更しない場合、この案とそれから第1案しかなかったので、対案として、この2案を出させていただいた。その上で、1案がいいとか2案がいいとか、1案にするのであればここをもう少し変えてほしいとか、そういうのがあったら意見をいただきたい。

質問者 これまで保護者からの意見としては、学区を変更しないでほしいということと、高学年分離はしないでほしいということが主な意見だったと思うので、保護者側の意見としては、案1というイメージのものが非常に多いのかなというふうを感じる。実際、案1と案2を比較させてもらったときにも、事業費的にも案1のほうが安く抑えられているし、グラウンドが狭いという問題など、狭いという問題だけなので、その安全策などだけしっかり講じていただければいいのかなというふうには思う。保護者側では、学区の問題と高学年分離の問題だけかと思うので、狭いという部分で、これまでアンケートなどで特に保護者に対しての意見というのはとっていなかったかと思うので、その点を非常に問題視している保護者というのがどの程度いるのかというのはわからないけれども、その点がちょっと気になる。

質問者 先ほど、推計で56クラスということで、次に建つ869戸はもう入れて

いるという話だが、もし今も変更がきくのであれば、できたらそっちも学区変更のほうにしていだけないか。

その理由としては2つあって、まず1つが、最大2,000名、子供が増える。グラウンドがほとんど使えない状態になるし、恐らくもうびっしりだろうという形になる。それならば、少なくともその状況を減らす方向に何か今持っていけないかなと。新しいマンションに入る人は嫌な思いをするかもしれないが、まだそういうふうな宣伝で変えられるのであれば、少しでも谷津小学校に入る人を減らす方向の施策をとれるのだったらとってほしいというのが要望としてある。

そうすると、事業費で一時校舎の数も減らせて、より安全確保ができるのかなと思うので、そういうふうな形で1案の一部学区、あちらの新しいマンションだけ変えてしまうとか、そういうのも検討していただけたらと思う。

ちなみに、この一時校舎は耐震的にどれぐらいの強度を持っているのか。

回答者 耐震については、安全性は保たれているということになる。

また、新しい開発のマンションを別の学区にという考え方だけれども、これについては、現段階において、この谷津と奏の杜の地域を一つの構成という考え方なので、基本的には、この方向でいくとした場合には、その一部のマンションのみ学区を変更するということはないと考えている。

ただ、一方で、やはりその56学級といった状況の中で、保護者の方からお話があれば、その周辺の谷津エリアの弾力化を組んでいるどこからでも通える学校というのもある、そういう御案内はさせていただこうというように考えている。

回答者 仮設の校舎といっても、これは建設をする上における建築確認をしっかりとっていかなければいけないということからすると、耐震性について何ら問題はないということで御安心はいただいいてよいと思う。また、今御指摘のように、新しく住む方のマンション部分の学区は変更という、確かにそういった御意見もあろうかと思うけれども、教育委員会としては、奏の杜の地域ということを考えて場合、やはり二分するというのではなくて、学校・地域・家庭のつながりを考えると、谷津小学校で受けとめをさせていただこうというふうに考えた。また、向山小学校は弾力化というところで、どこからも通えるけれども、谷津南小学校を例えば弾力化をすることによって受け入れをするというようなことも考えられる。

あとは、谷津小学校が特色ある活動ということではなくて、教育委員会としても、やはり谷津南、向山、どこも魅力ある学校にしていかなければいけ

ない。十分、そういった学校であるとは思いますが、より一層そういう働きかけはしていかなければいけないというふうには思っている。

また、全体の中でも余り深く説明はできなかったけれども、やはりグラウンドの狭隘化というところは否めない。そういったところは近隣公園を借りるという中でグラウンドを少しでも広く活用していきたいというふう考えた案である。

質問者 向山小学校を弾力化しているが、何か人を集めるために実は谷津小とは違ってこんなことを取り組んでるよみたいなのが あったら、ちょっと教えていただきたい。要は、やはり狭隘化する学校になるのであれば、向山小に行ったほうがいいのかとか、そういう情報がもしあれば教えてください。

回答者 向山小学校が今少人数というところでの取り組みは、さまざま行っているところである。これは、どこの学校もやっている異学年交流といった取り組みの中で、メイン的にはこぶしっ子マラソンという取り組みであったり、セカンドスクールという宿泊の体験学習なんかも、わくわく鹿野山ということで、他校では4年生以上で行っているが、1年生から6年生まで一緒に宿泊体験学習をしているなど、そういう取り組みをしている。

回答者 向山小は本当に規模の小さな学校なので、異学年活動といっても、谷津小学校で実践されている異学年活動よりもはるかに進んでいるというか深いものをやっている。

例えば運動会なんかも、普通、一般的にはクラスは赤白で分ける形でやっているが、向山小学校は、「なかよしグループ」というのがあるので、恐らく1年間ずっと1年生から6年生まで活動しているグループが、各クラス関係なく、そのグループが赤だよといったらば赤になったりするような異学年活動を行っている。そのため、小規模校ならではの活動が組まれている。ただ、なかなか異学年活動というのは、言葉の中に隠れてしまうので、どこの学校でもやっているだろうという話なるけれども、具体的に見ていると随分特色を持っている。

また、昨日行われた千葉県造形部会で、今、向山小学校へ行くと、校舎の中は美術館のようになっている。つまりいろいろな子供たちの造形作品が掲示されており、また違った学校の空間をつくり上げているなと感じた。教育委員会でもその辺のPRがなかなかされていないという反省材料としてある、実は。その辺の取り組みをもう少し表に出していきたい。そういうことになると869戸以降のマンションの方たちにも、こういう学校があると

いう案内をかけながら、ひょっとしたら中には56学級の学校の中で学ばせるよりはそういう小さな学校でというか、そういう特色ある学校で学ばせたいという保護者の方も中にはいるかもしれないので、案内をかけていくときに十分広報できるような方法を考えていきたいなというふうに思っている。

質問者 今回の案で谷津幼稚園を移転しないという案を出していただいて感謝している。まだ未就園児をいっぱいお抱えのお母様方、すごく心配されていたので、それはとてもうれしい一文だった。

あとは、大体意見になるけれども、最大で56学級となると、単純計算で一番多い学年で9クラスぐらい、1学年が300人を超える学校になると思うが、そうすると学校行事、例えば運動会、今は朝8時半から3時ぐらいまでかかって、800人でやっているけれども、それを千何百人の運動会が1日で終わるのかとか、特色ある活動とおっしゃる音楽で毎年1回文化ホールで音楽発表会を全校そろってやっているけれども、もう既に1,500人の文化ホールのキャパシティを超える子供がいて、それができない。あとは、鹿野山宿泊で、鹿野山のところに何人行けるのかわからないけれども、学年を2つに分けなければ鹿野山に行けないかもしれない。それから、今800名でこのグラウンドと体育館でやっているけれども、それでも業間休みの時間には順番に体育館で遊んでいいよ、全員が運動場で遊ぶと危ないから、今日は3年生が体育館の日とか分けてやっているのに、校舎をいっぱい建ててグラウンドが狭くなると、休み時間に教室の中ですごくストレスがたまって、例えばいじめとかそういう方向に走ってしまうかもしれない。

あとは、体育館に関して、今、その計画の中でもう一つ体育館がなければいけないという案があればいいのだが、今の普通の大きさの体育館では、入学式、卒業式、それから全校集会とかも全く行えるとは思えないし、先生方も多分いろいろな負担がかかると思う。

私も学区は変更しないほうがいいと思し、高学年は分離しないほうがいいと思うけれども、それを叶えてここで小学校を運営するには、本当にこれからいろいろなことを考えていかなければいけないと思うので、ぜひ子供の視線も加えていただきたいと思う。

最後に、子供たちが中学校に入ってからのことだけれども、前回までの説明では、1つの中学校に余り1つの小学校からたくさんの子供が行くと、1つの小学校から来た子ばかりが強い、立場的に強くなってしまおうというようなお話もあったと思うが、このまま学区を変更しないと、向山小から一中に行く子、谷津南小から一部のお子さんが一中に上がってくるので、その対比上、おそらく谷津小の子が占める割合が相当強くなってしまおうと思う

ので、そこの辺も配慮してあげてほしい。

回答者 御指摘のあったさまざまな御懸念、我々もそのような学校行事についての懸念は持っている。これらについてどのような対応ができるか、これはその段階でまた保護者の皆様とも御相談しなければならないし、学校との協議・調整を行い、その中で校長さんのリーダーシップのもと、さまざま工夫できるものは工夫した中で取り組んでいく必要があるだろうというように考えている。

また、中学校進学時における、向山小と谷津南小の児童数格差による心配という点についても、これまでと同じような方向になるので、その辺は今回の56でいくようになれば、我々としてもこれは新しい、適切かどうかかわからないが、一つの挑戦というか、そういうことになってくると思う。そういう中では小学校間での連携というか、新しい発想の新しい取り組み、こういったものも取り組んでいかなければならないだろうと。より子供たちにとってふさわしい教育環境ということ念頭に組み込んでいく必要があるだろうというように強く感じていると受けとめていただければと思う。

回答者 例えば鹿野山。鹿野山セカンドスクールの宿泊施設、今の供用というのが8部屋ある。1部屋が確か25人なので、それを考えると200人になる。以前、習志野市の大きな学校において、その1つの学年を2つに分けるといような取り組みも現にあった。そのため、絶対参加しないということはないけれども、そのように少しは不便をかけるようなこと、またはこれまで全学年一緒に行けたのに、2つに分けなきゃいけなくなるとかということもあるということを御承知していただきながら、学区を変えないでこの地域の子供たちを谷津小学校で育てていくということを、保護者の皆様方にも御理解と御協力をいただかなければいけないということは御承知していただきたい。これは運動会にしてもそうである。800人ぐらいでもいっぱいいっぱい競技をするのに、1学年300人ぐらいで1つの競技が終わるのに何分かわからないというようなことも出てくるかもしれない。そうなったときには、種目数が減るだとか、または種目を2つにするけれども、どちらかにしか出られなくなる。あくまで仮定の話なので、そうなるかはわからない。ただ、そういうようなこともあるかもしれない。学区を変えないということ、大きな学校であるということはいろいろな課題が出てくるということ御理解いただけたらなというふうに思う。

校外学習にしてもそうである。休み時間の運動場は狭く、どこで遊ぶのかわからないということもでてくる。そうすると、現に今遊べている時間というのは、

業間休みあるいは昼休みであるので、この辺を例えば近隣公園まで職員が安全に誘導しながら、職員と一緒に遊びに行くだとかということも出てくるかもしれない。そうすると、休み時間を、今まで20分であったものを移動の時間も含めて25分にしなければいけないよねとなったら、どこかで5分切らなければいけなくなったり、延ばさなければいけなくなるので、下校の時間が少し遅くなるか、または開始の時間を少し早めて集めようということもあるかもしれない。そういうことは、教育課程であるので、その都度学校のほうと相談しながら組まなきゃいけないことであるというふうに御理解いただけたらなと思う。

質問者　　今うちの小学生の息子が野球部に入っている。野球部で今日は来ていないのだが、狭い中で野球をしている。例えば案1になったり案2になったりしたときに、近隣の公園を使うというお話だったけれども、野球部自体が土曜日とか日曜日とかサッカー部もそうだけれども、そうやって活動している。そういった場合、グラウンドを使うにはやっぱり狭いというのがあるのと、その近隣の公園を土曜日とか日曜日とかの日に使っているのかどうかと、あと部室を今プールの横、前のあたりにあるけれども、そういったものが今後どうなっていくのかというのを伺いたい。

回答者　　今の御質問は、土曜、日曜に社会体育利用という形で学校開放しているグラウンドの使用だと思う。これについては、今回の案を提案するに当たって、調整をしなければならぬ大きな項目の一つであろうということは認識をしているところである。今回のこの2案でいったときに、案1という考え方の中では、恐らく開放するだけの、野球、サッカーには利用には供せないというように考えている。

そういう中で、近隣公園が使えるかどうかという部分については、これは公園のほうとしてどのように代用するかというお話になるので、今その公園での活動については、現段階、お答えするということはできない。あるいはその小学校の活動エリアをどのようにするかというところになると思うが、現在、社会体育利用については、また今後その案1の方向でいった段階で、その代表の方であるとか、そういった方々とのお話し合いをしなければならぬだろうなということ考えている。

質問者　　部室とかは他に建てるのか。

回答者　　部室についても、グラウンドが狭隘になっていく過程の中で、プールの廃

止というお話もさせていただいているので、プールを壊した場合、部室だけがその前に残るという形態になるので、その段階でその必要となる建物がどこで手当てできるのかということにも応じて、もし案1の場合であれば、平成26年度中の全体計画の中で検討することになっていくと思う。

質問者 案1について、谷津近隣公園がグラウンドになるという話をさっきしていたが、それは信号を渡って行くことになると思う。そういう業間休みとか体育の時間と違って、信号の横断は危なくないのか。そういう安全面とかちゃんと考えているのか。そういうところをよく考えてもらいたい。

回答者 御指摘のとおりである。業間休み、業間活動の際に当然、安全確保の中で行っていかなければならないことだと思っているので、その辺も十分私たちのほうでも考えさせていただく。

～閉会～